

名古屋大学医学部附属病院

病院長名	小寺 泰弘
所在地	〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65 番地
交通案内	JR 中央線「鶴舞駅（名大病院口）」下車 徒歩 3 分 名古屋市内営地下鉄「鶴舞駅」下車 徒歩 8 分

□ 病院の特徴

名古屋大学では従来より、卒前から卒後に至る一貫した臨床医学教育を実現するために『総合医学教育センター』を設置していたが、2008 年度からは、初期研修後の専門育成も支援するために、『卒後臨床研修・キャリア形成支援センター』としてさらに機能充実を図り、研修サポート体制の拡充を行った。これにより、名大研修の特徴である関連病院と密接に連携した質の高い臨床教育をより円滑に推進できるようになった。すなわち、2 年間の初期研修のみならず、後期・専門研修のキャリアパス整備とキャリア形成の積極的支援など、後期研修や専門研修においても、病院として責任を持った体制を確立した。各種教育ツールを一括管理してシミュレーションによるトレーニングを進めるとともに、OJT（On the Job Training）を重視して臨床手技の習得が速やかに行われるように力を注いでいる。

□ 研修プログラムの特徴

【研修プログラム名】

名古屋大学眼科研修プログラム

【研修目標】

眼科医として幅広い知識と高度な医療技術を身につけ、自立した眼科医として国民医療に貢献する。

【研修期間】

4 年

【研修スケジュール】

1 年目は基本的には名古屋大学病院で研修を行います。定期的に教官による系統講義を受けて、知識をつけていただくと同時に、救急疾患、希少症例、難病などの豊富な症例を経験していただきます。また、大学のアカデミックな側面に触れていただくために、指導医が地方会などの発表の指導をします。大学病院は、内眼手術件数、指導医数も多いのではじめに診察技術、手術手技の基本を習得していただきます。特に名古屋大学は眼科用シミュレーターを有しており、白内障、硝子体手術手技を実践に近い形で学ぶことができ手技の向上に役立っています。2 年目以降は連携施設、もしくは名古屋大学病院にて手術などを指導医のもとに行い、4 年間の研修期間に



手術の現場



系統講義



難症例も含め白内障は一人で行えるようになっていただきます。このプログラムには、多くの連携施設が含まれており、高度な手術を経験することや、こども病院などの特殊な専門領域を選ぶこともできます。大学院に入学を希望する場合は名古屋大学病院を中心に臨床もしくは基礎研究を行い、プログラムをこなします。専攻医の希望にできるだけ沿ったプログラムを構築する予定ですが、専攻医全員が到達目標に達することができるように研修施設を調整します。

□ 主な連携施設

あいち小児保健医療総合センター、安城更生病院、刈谷豊田総合病院、江南厚生病院、豊橋市民病院、公立西知多総合病院、公立陶生病院、西尾市民病院、市立四日市病院、一宮市立市民病院、稲沢市民病院、名古屋掖済会病院、岡崎市民病院、春日井市民病院、海南病院、津島市民病院、小牧市民病院、静岡済生会総合病院、名古屋セントラル病院、岐阜県立多治見病院、久美愛厚生病院、日赤愛知医療センター名古屋第一病院、名古屋記念病院、中部防災病院、東海中央病院、トヨタ記念病院、半田市立半田病院、名鉄病院、南生協病院、碧南市民病院、聖霊病院

□ メッセージ

教授 西口 康二

名古屋大学医学部眼科学教室は、明治 15 年に始まって以来、約 130 年の長い歴史があり、多くの優秀な眼科医を輩出しております。個人の多様性を尊重しつつ、標準化医療と高度な研究・治療法開発を両立します。



□ 募集要項

・採用予定人数	9 人
・給与／月額	月額約 20 万円に加え、該当する場合に手当（通勤手当、超過勤務手当、夜勤手当、特殊勤務手当（夜間診療業務手当等））を支給
・当直回数／月	約 2 回／月
・当直料／回	20,000 円／回
・その他	平日日勤帯の外勤等（週 1 日まで）可
・応募連絡先	担当者 兼子 裕規 電話番号 052-744-2277 Eメール h-kaneko@med.nagoya-u.ac.jp